

# 【熊本S. J. C. D. 例会 抄録】

演 題 顎関節症Ⅲ型患者に全顎修復治療を行った一症例

演者名 古田洋介

日 付 2016年3月22日

keywords

1. アンテリアジグによるゴシックアーチ
2. 関節円盤前方転移、クローズドロック
3. 水平的習癖

## 抄 録

患者の概要：患者は、初診日2014年4月18日、リウマチを有する66歳女性で、歯の色が気になりホワイトニングや歯石取りを主訴に当院に来院した。

過去に他院で歯ぎしり防止のナイトガードを装着したが、逆にTMDが悪化したとのことであった。また、患者は水平的ブラキサーで著しい咬摩と左偏咀嚼があり、このことよりTMD悪化の要因と考えられた。尚、初診時から左側顎関節に関節円盤前方転移（復位を伴う）と思われる相伴性クリックが認められた。

前医でスプリント治療後に顎関節に痛みが出たトラウマから、スプリント治療は受け入れてもらえなかった。

治療の概要：プロビジョナルによる咬合のコントロールと調整を行い、顎位の模索を行った。しかし、プロビジョナルセット後からTMD症状が出始め、一旦、食事も刻み食になった。再度、プロビジョナルを調整した結果、徐々に症状の改善するとともに、食事も普通に出来るようになり、顎位が安定が得られたと考え、最終補綴に移行することとした。しかしながら、最終補綴装着後に再び左側顎関節にクローズドロックによる開口障害をきたしてしまった。

まとめ：今回、患者な審美的な要求に対し満足は得られ、食事は普通に摂れているものの、顎関節に不調和をきたしてしまい、全顎治療の難しさ、怖さを思い知らされた。

諸先生方のご意見をよろしく申し上げます。